



© 2000 KENOFFICE BOOKSTART
Bookstart

Jan 2016

No.51

Bookstart Newsletter

NPOブックスタート
Bookstart Japan

東京都新宿区新小川町5-19 角田ビル3階 〒162-0814 Tel: 03-5228-2891 Fax: 03-5228-2894
E-mail: infobs@bookstart.or.jp URL: www.bookstart.or.jp

行ってきました!

東京都八丈町

伊豆諸島のひとつ、八丈島にある東京都八丈町。南国情緒豊かなこの町でブックスタートが始まったのは2014年。2か月に一度、3~4か月児健診の最後に実施しています。

事務局である図書館は人手も少なく、新規に事業を立ち上げるのは大変だったそうですが、この活動をきっかけに地域の中に新たなつながりが生まれ、子どもを見守る人の輪が広がっています。



【ブックスタート開始年月】2014年8月 【対象月齢】3~4か月
【年間出生数】約60人 【実施会場】3~4か月児健診
【事務局】図書館
【連携体制】図書館、福祉健康課、町立八丈病院、民生委員、ボランティア

会場の様子

全体ミーティング



健診開始前の打ち合わせには、ブックスタートのスタッフも参加。当日の対象者数や注意事項を全員で共有します。

事業の説明



健診を終えた親子を、図書館員がブックスタートのコーナーに案内。「赤ちゃんと言葉や笑顔をやりとりする方法の一つとして、絵本を使ってくださいね」絵本リストや図書館の説明も行います。

絵本の体験

ボランティアが、絵本の紹介をしながら読みかかせをした後、4冊の中から親子が選んだ2冊を手渡します。





お話をうかがいました！



司書 町立図書館 明石 香織さん

石川県内での図書館勤務を経て、10年前から八丈町立図書館に勤務。
図書館に来る子どもたちの成長を何よりも楽しみにしている。

◎ 様々な人の協力があってこそ、実現できる事業

図書館だけでは、この事業を行えません。福祉健康課やボランティアなど、多くの人の協力があるからこそ実現できる取り組みです。また、関係各課の管理職が会場の様子を見学したことも、事業を進める上で大きかったと考えています。例えば、実施場所が狭いため、声が重なって会話がしづらいという課題が生じた際も、福祉健康課が会場や実施タイミングについて検討してくれ、健診全体を見直すという大きな判断につながりました。

◎ ブックスタートがもたらした地域の変化

ブックスタートでは、「赤ちゃんでも貸出カードが作れます。ぜひ図書館に遊びにきてくださいね」とお伝えしています。それが保護者の口コミで広がっているようで、赤ちゃんだけでなく小さなお子さん連れの来館者が増えてきています。また、絵本をコットンバッグに入れてお渡ししますが、町の中で「そのバッグどうしたの?」「ブックスタートでもらったんだよ」といった会話が生まれています。保護者と赤ちゃんにとって絵本がそうであるように、この活動自体が、地域のコミュニケーションツールになっていると感じています。



保健師 福祉保健課 せきもと 關本 尚正さん

母子保健事業を担当する、課で唯一の男性保健師。
プライベートでは、1年前にブックスタートを受けた我が子と絵本を楽しんでいる。

◎ 親子のふれあいを、自然な形で伝えられる

保護者の中には、子どもと関わるのがあまり得意ではない人もいますが、関わり方を言葉で教える、指導するというのは難しいものです。でも、ブックスタートの場で、ボランティアが絵本を読みながら言葉をかけている様子や、赤ちゃんの反応を実際に見てもらうことで、どう接すればいいのかを自然に伝えることができます。

当初は、「ブックスタートを行うことで、健診に何か障が出るのでは」と心配する声もありましたが、流れがしっかりと確立できれば、心配はありません。保護者にとって嬉しい事業ですし、親子の結びつきが深まるので、保健師の立場からも実施して良かったと感じています。



ボランティア 笹本 薫さん

図書館運営を支援する「よりよい町立図書館づくりをすすめる会」代表も務める。
ボランティアのメンバーはみんな、「赤ちゃんの笑顔から幸せをもらっている」という。

◎ ブックスタートが始まって嬉しいです

絵本を介して、親子で潤いのあるひとときを過ごしてほしいと願ってきたので、事業が始まったことを嬉しく思っています。町の中では知らない人にさうそう声はかけられませんが、ブックスタートでは自然な形で親子に声をかけることができます。だから、保護者も構えることなく、おばさんたちの話を聞くことができるのでしょうか。「この島には子育てについて話ができる人がたくさんいるんだ」ということも感じてもらえたら嬉しいです。



事業開始前には「よりよい町立図書館づくりをすすめる会」が中心となり、研修会を開催。



お父さんやきょうだいの姿も。赤ちゃんが第4子、第5子ということもあるそうで、一緒に健診にやってくる上の子向けの絵本も展示しています。



「離島ならではの取り組みがあるのでは？」と思いながら伺った今回の取材。でも、皆さんのお話を伺う中で感じたのは、ブックスタートの“普遍性”でした。活動をしていく上で、島ならではの良さや大変さもあるそうですが、「絵本を介して親子でふれあってほしい」「赤ちゃんと保護者に幸せになってもらいたい」という皆さんの思いは、他の地域と何ら変わりないものでした。豊かな自然と地域の見守りの中で、島の赤ちゃんたちは、きっとすくすく育っていくのでしょうか。(安井)

私のまちのブックスタート

寄稿

姫島村の“つながる”ブックスタート事業

大分県姫島村役場 健康推進課
主任保健師 小島 亜矢

姫島村は、人口2,000人の離島です。出生数は、年度でばらつきがありますが、約10人です。地域の住民どうしの結びつきが強く、赤ちゃんからお年寄りまで、安心して暮らせる村だと思っています。

ブックスタート事業は、2006年から開始しました。当初から読みきかせグループ「ひだまり」のボランティアさん達に協力してもらいながら、乳児健診の時に行っています。姫島村では、3冊セットを2パターン準備して配付していますが、ボランティアさんには絵本の選定の際にアドバイスをいただいております、おすすめの絵本を紹介してもらって、その年度に手渡す絵本を選んでいます。また、会場では保護者や赤ちゃんが選びやすいように絵本を紹介したり、配付する絵本以外に赤ちゃんが興味をもてるような絵本を紹介していただいております。

ブックスタート事業で絵本を受け取ったお母さん達にその後の様子を聞くと、絵本を通しての親子のふれ合いだけでなく、きょうだいで読み合うなど、子どもどうしの交流にもなっているようです。また、ブックスタートでもらった本を繰り返し読み、小学生になっても大切にしている方もいるそうです。

ボランティアさんが行う「読みきかせの会」では、以前は小学生を多く見かけましたが、最近では乳幼児期の子どもをよく見かけるようになりました。ブックスタート事業で顔見知りになったお母さん達が、子どもと一緒に参加しています。

ブックスタート事業を始めて、来年度で10周年を迎えます。ボランティアさんの協力もあり、ここまで続けることができました。この活動に関わってみて、ブックスタート事業は、絵本から始まり、本を読むことへのつながりや、家族やボランティアさんとのつながりをつくる大切な活動だと思います。3冊の絵本をきっかけに、親子が多くの人や本と出会っていけるよう、ボランティアさんと協力して継続していきたいと思っています。



「2015年度ブックスタート研修会in静岡」 開催報告

10月19日、静岡県で開催したブックスタート研修会。自治体職員、ボランティアを中心に、81名が集いました。本特集では、当日のプログラムより、県内3地域（三島市、沼津市、浜松市）の担当者による事例紹介の様子をお伝えします。



三島市



市立図書館
司書 渡邊 基史さん

【ブックスタート開始】2002年 【出生数】約850人 【実施機会】3か月児健康教室

◎ 一組ずつの親子に丁寧に対応

赤ちゃんの様子に合わせて声をかけ、読みきかせをすることで、保護者は我が子のかわいらしい様子が見られるとともに、絵本を読んでもらう心地よさを感じ、やさしい気持ちになることができます。ブックスタートでは、市内のほぼすべての親子に絵本を配付できるだけでなく、しかも、それをどのように活用したらいいのか、一人ひとりに伝えることができます。これは本当に意義のある事だと思います。



◎ ボランティアとの情報共有

丁寧に実施していくためには、ボランティアの協力が欠かせません。ボランティアの皆さんとは、活動の理念や親子への対応方法などを常に共有するよう意識し、研修会や交流を深めるための機会を定期的に設けています。また、活動を通じて蓄積されたノウハウを「ボランティア手順書」にまとめて配付。いつも手元において確認できるようにしています。



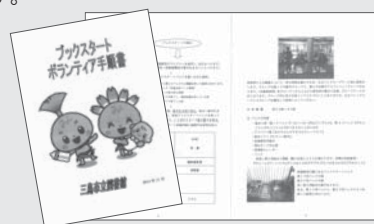
ボランティア連絡会議の様子

【ボランティア手順書】

当日の流れや説明内容、よくある質問などについても掲載しています。

<質問例>

- ・もう絵本を読んであげなければいけないか？
- ・絵本をかじったり、破いたりしますがどうしたら良いですか？
- ・同じ絵本ばかりみたりします。新しい本を与えた方が良いですか？
- ・赤ちゃんと一緒に図書館に行ってもよいのですか？



沼津市



子育て支援課 せんぼん子育て支援センター
主任保育士 長澤 あすかさん

【ブックスタート開始】2010年 【出生数】約1,400人 【実施機会】7か月児健康相談

◎ 子どもをめぐる様々な問題の“予防策”として

虐待など、子どもをめぐる様々な社会問題への予防策を模索していた子育て支援課が中心となり、ブックスタートを開始。健康相談に本事業が加わったことで、会場の雰囲気も保護者の表情も和らぐようになりました。この場に参加できなかった方には、必要に応じて家庭訪問で絵本を届けますが、そうした方の中には具体的な支援を必要としている方もいます。“すべて”の親子を意識しながら、活動を続けています。



◎ 絵本を介してふれあうきっかけを、継続的に届ける

ブックスタート以降も、絵本を介した親子の関わりを応援する事業を行っています。家庭での絵本のひとときは、子どもにとって、大好きな人のぬくもりを感じる大切な時間となります。こうした事業を継続的に行うことで、たくさんの笑顔が生まれる、子育てしやすいまちを作っていきたいです。

<沼津市親子絵本ふれあい事業>

- ①ブックスタート(7か月児健康相談)
- ②ブックステップ(2歳児歯科健康診査)
※絵本の読みきかせとプレゼント
- ③ブックフォロー(巡回型子育てサロン)
※保育士による読みきかせなど

浜松市



市立中央図書館
司書 高瀬 理子さん

【ブックスタート開始】2007年 【出生数】約6,900人 【実施機会】図書館などでブックスタートのための機会を設定

◎ 年間約400回、市内25会場でブックスタートを実施

市では0歳児健診を病院で個別に受診する体制がとられているため、本事業をどのような機会で開催するかが課題となりました。様々な協議を重ね、現在は市内25会場(図書館、保健福祉センター、ショッピングセンター)で、土日も含め、年間約400回の機会を設け、実施しています。参加者の満足度は高く、その後、図書館で行っている「えほんとわらべうたの会」に継続的に来てくれる親子も多くいます。



◎ 参加を呼びかけるための工夫

集団健診で実施できない分、広報には力を入れています。母子手帳に案内を掲載するほか、出生届提出時や新生児訪問でも事業を紹介。小児科にもチラシを配置しています。しかし現在の参加率は約6割。今後は開催日や会場についても調整していく予定です。ブックスタートに関わった人は皆、絵本の楽しさを共有する“幸福感”を強く感じているに違いありません。それをよりどころに、今後も様々な課題に向き合っていきたいと思います。

【ブックスタートご招待状】

新生児訪問時に、保健師や助産師から手渡し。外国語を母語とする方も多いため、英語、ポルトガル語、中国語、タガログ語版も用意しています。



ブックスタートからの贈り物

埼玉県 三芳町立図書館 館長
NPOブックスタート理事

代田 知子



8年目を迎えた三芳町のブックスタート。今では町の子育て支援策、子どもの読書活動推進策として欠かすことができません。図書館も、職員やボランティアも、ブックスタートからたくさん贈り物をもらいました。

そのひとつは、児童室担当職員たちが、子育てに苦戦する母親の気持ちに寄り添えるようになったこと。ブックスタート会場では、疲れ切った表情の母親をよく見かけます。最初は、「絵本どころじゃない」と言われそうで不安でしたが、そんな心配は一切無用でした。我が子が絵本に反応するのを見れば、誰もが顔を赤らめ嬉しそうに笑うのですから。こうした出会いを繰り返すうちに、私たちの中に「頑張れお母さん!」という気持ちが確実に育ちました。また、子どもに本を読んであげるのが簡単ではない家庭が少なくないという現実も知りました。では図書館として、どう働きかけるか。そこが肝心だと気づいたのです。

ブックスタートで、赤ちゃんの息づかいや表情を受け止めて読むという経験を積み、読み方や絵本を選ぶ目も変わりました。みんなが腕を上げたのです。私たちは、赤ちゃんが絵本に興味を示す姿を保護者に見てもらうことを、ブックスタートの目標のひとつにしています。「分かるんですね!」と驚き、「早く読んであげたい」「パパにも見せたい」といそいそ帰る人が大勢いるからです。

だから、読みながら赤ちゃんの反応をしっかりと観察します。そして教えてあげるので、「愉快的音が好きみたい。音に合わせて足がぴよぴよ動いていますね」というように……。

毎回15分程度の反省会をし、保護者から出た質問、赤ちゃんが絵本のどこでどんな反応をしたかなどを職員、ボランティアの各自が報告。職員はここでの報告を課題とし、赤ちゃんにとっての絵本を考察して、その評価や選書基準を考えるようにもなりました。

何よりありがたいのは、ブックスタート導入後、図書館の絵本貸出冊数が急増したことです。乳児向けおはなし会開催日には、ベビーカーがずらりと並び、児童室に来る父親も増えました。先日は、ブックスタートでもらったラッコのコットンバッグを持参したパパが坊やと一緒に来館し、はたまたラッコのバッグ持参の父子とご対面。互いのバッグを確認し、初対面で笑い合うという愉快な一幕もありました。

今、三芳町ではブックスタートに続き、2歳児にブックスタートプラス（2歳児歯科健診で読みかきせとともに、絵本1冊プレゼント）、新1年生に小学生時代に読んでほしい本を紹介する冊子の進呈を実施中。図書館の専門性が理解され、3年前には20数年ぶりに司書が正規職員として新規採用されました。ブックスタートよ、ありがとう!



図書館の乳児向けおはなし会



お父さんの来館も増えました

※代田さんのコラムは今回が最終回です。次年度もどうぞお楽しみに。

イベント開催のお知らせ

「子ども・社会を考える」講演会シリーズ ③
『社会で子どもをはぐくむ』
臨床心理士 武田信子

日時： 2016年3月12日(土) 13:00-15:00

会場： 大阪城スクエア 大手前ホール

参加無料・事前申込制(定員400名)

読みかきせ、母子保健、保育、子育て支援など
様々な分野の皆さんのご参加をお待ちしています。

詳細は www.bookstart.or.jp へ

訪問記録

9月	2日 愛知県名古屋市 2日 山口県岩国市 17日 福島県下郷町*	17日 宮崎県宮崎市 30日 香川県高松市
10月	6日 滋賀県長浜市 13日 東京都八丈町 15日 福島県中島村* 19日 ブックスタート研修会(静岡)	26日 鳥取県境港市 29日 茨城県日立市 30日 愛知県西尾市
11月	12日 福島県郡山市* 17日 栃木県佐野市	27日 神奈川県茅ヶ崎市
12月	1日 北海道恵庭市 9日 新潟県新潟市 10日 石川県能美市	17日 福岡県飯塚市 22日 千葉県千葉市

* 福島県 読書活動支援者養成事業ステップアップ研修